

法政大学大学院  
入学試験 解答又は解答例、出題の意図

試験科目	人文科学研究科 哲学専攻 修士課程《一般》・研修生	2026年度 春季
専門科目		

【I】

《解答又は解答例》

受験者の知識、理解、考察、議論構築を総合的に問う論述問題であるため、一義的な解答例を示すことはできない。解答に当たっては、自己の哲学研究の内容の自覚とそれに見合う勤勉さ・誠実さをはじめ、哲学と社会、哲学と自己の生き方等の問題への日頃の反省、考察…、最終的にはそれらの蓄積を適切に伝達する能力が求められる。

《出題の意図》

自己の哲学研究の目的を明らかに示すことができるか、また研究生活の行く末に自己の将来や成長を見通しているか・見通すことができるか等を確認する意図がある。また、受験者の哲学理解の内容・程度、研究姿勢・社会性、研究展開の可能性あるいは制限等を推し量りたいという意図がある。

他の問の回答結果と併せ、総合的に合否を判定するための資料となる。

【II】

《解答又は解答例》

1. ソクラテスのエレンコス Socratic Elenchos

ソクラテスは人々に徳と真実に配慮し魂をできるだけすぐれたものにするように説いた。そして自分はそれに心がけている、と主張する者があれば、それが本当か否かを問答を通して吟味し、必要であれば論駁した。この吟味・論駁をエレンコスという。

通常、エレンコスは次のような形式をとる。対話相手が A を主張する。ソクラテスは A の真を疑うが直接に A を反論するのではなく、A に関連する質問を問い続け対話相手から a1,a2,a3,...an の回答を引き出す。次にソクラテスはこれら a1,a2,a3,...an の主張がもともと主張 A に矛盾することを示し、対話相手の無知（知らないのに知っていると思いついでいること）を知らしめるのである。

2. 枢要徳と対神徳

ギリシア由来の徳倫理学の枠組みを、中世の神学者トマス・アキナスがキリスト教内部に導入する際に、徳に即した幸福のあり方を「人間的なもの」と「神的なもの」とに分けた結果として、主要な徳も二通りに分かれることになった。人間的な幸福を達成するために必要とされる徳が「枢要徳」であり、ギリシア由来の知慮・勇氣・節制・正義がそれに当たる。しかしアキナスは、人間的な幸福のさらに先に、究極的な仕方で完成される人間の幸福があるとし、その達成のために必要とされる徳を「対神徳」とした。信仰・希望・愛という対神徳を、カトリック共同体の中で実践的に習慣化することで、究極的な幸福すなわち神への合致は達成されるのである。

法政大学大学院  
入学試験 解答又は解答例、出題の意図

試験科目	人文科学研究科 哲学専攻 修士課程《一般》・研修生	2026年度 春季
専門科目		

3. 明晰判明 *clarté et distinction*

デカルトにとっての真理認識の基準として有名な語であり、明証性と同義である。明晰とは精神に鮮明に現前する認識であり、判明とは明晰であると同時に他の事物から明確に区別された認識である。その意味で判明性は明晰性よりも真理として一層厳密である。明晰な認識の例としては感覚（例えば苦痛）が挙げられ、判明な認識の例としては「私」、神、延長（物体）が挙げられる。前者では認識は混乱（錯雑）しているのに対し（苦痛は魂の受動としての知覚であるのに、それが身体に実在するかのように考えてしまう）、後者では事物が他の事物から区別され、独立したものとして考えられる。明晰判明性はあくまで「私」の認識に関わるという点で、「私」が確立する真理の基準だが、その真理認識を保証するのは真理の源泉（創造者）である神である。

4. 道徳法則への尊敬 *Achtung fürs moralische Gesetz*

カントの『実践理性批判』の「動機論」で詳しく論ぜられる概念である。道徳的意志決定において、道徳法則（定言命法）に従うことが求められ、道徳法則への尊敬はこの意志決定に伴う道徳感情である。この感情はカントの説くアприオリな道徳法則に対する尊敬であるから、経験的な道徳感情とは異なり、純粋な感情とされる。このように道徳的意志決定において理性における法則ばかりか感情の働きをも必要とした点は、理性的完全性の原理による大陸合理論の道徳哲学と英国経験論の道徳感情説とをいわば止揚して自らの立場を築く、というカント哲学の特徴を示している。

5. 「神は死んだ」 “*Gott ist tot*“

ニーチェが『喜ばしき知識』や『ツアラトウストラはかく語りき』等において提示した、「神」という絶対的な価値・意味への信頼が失われたことを示す言葉。『喜ばしき知識』第125節においては、「狂気の人」が神を信じていない人々に向けて、人間の手により「神は死んだ」ことを告げる。この洞察は、世界に絶対的意味が存在しないというニヒリズムに通じるとともに、人間自身が新たな認識を始め自ら生の価値を創造するという超人の思想を準備するものでもある。この言葉は、20世紀のドイツ語圏ではハイデッガーやレーヴィットによって、形而上学の終焉やヨーロッパのニヒリズムの到来を示すものとして解釈された。

6. 企投 *Entwurf*

ハイデッガーの『存在と時間』における現存在の分析において、現存在の了解というあり方を特徴づけるために提出された概念。現存在は、そのつど自分が何のために存在しており、そのためにどうすればよいかを了解している。このとき、現存在は自分を諸可能性に向けて企投している、といわれる。企投は、何らかの計画を立ててそれを実行に移すこととは異なる。むしろその前提となる、そもそもの現存在の存在の諸可能性を開示する。現存在の将来

法政大学大学院  
入学試験 解答又は解答例、出題の意図

試験科目	人文科学研究科 哲学専攻	2026年度
専門科目	修士課程《一般》・研修生	春季

という時間的あり方を導出するために鍵となる概念。

7. コンピュータ機能主義

機能主義とは一般に、心的状態を脳の機能的状態で定義する立場である。たとえば、「痛みを感じる」という心的状態は、ある身体的刺激（足をぶつける、とげが刺さる等々）を原因とし、適切な身体的振る舞い（悲鳴を上げる、患部をさする、「痛い」と叫ぶ等々）を結果としてもたらすような、脳神経の状態として定義される。機能主義は心的状態を単純に脳の生理学的状態と同一視するのではなく、機能的に記述される状態と考えるから、脳以外の異なる構造によって同等の機能的状態が生じることが可能なら、それに対して心的状態が帰属することになる。機能主義の中でもコンピュータ機能主義は、心的機能をコンピュータ的な計算機能によって記述し、脳をハードウェア、心をそれを動かすソフトウェアになぞられる考え方である。サールはこのような「コンピュータは単に心のモデルであるのではなく、心を持つとはまさにコンピュータ的計算をすることだ」という考え方を「強いAI」と呼んで、批判を展開している。

8. 共有地の悲劇 the tragedy of the commons

共有地の悲劇とは、集団の中で個々人が自己の利益を最大化しようと行動する結果、そこで共有されている資源が過剰に利用され、最終的に全体の利益が損なわれる現象を指す。アメリカの生態学者ギャレット・ハーディンが1960年代に提唱した。例えば、共有の牧草地で、個々の牛飼いが自分の利益を増やそうとして牛を増やし続けると、草が荒廃し、結果として皆に不利益が生じる。そのため、各人の利益を確保するためには、個々人の利益最大化行動を抑え、全体を管理・調整する仕組みが必要になる。この概念は、環境問題や資源管理など、現代社会の様々な問題に適用され、持続可能な制度設計の重要性を示すものになっている。

9. 写像 mapping

集合AとBに対し、AからBへの写像とは、Aに属する各元に応じてそれぞれちょうど一つ、Bの元が対応するような、A、B上の関係のこと。すなわち、直積集合A×Bの部分集合Rのうち、「すべての $x \in A$ に対し、ちょうど一つ $y \in B$ が存在して、 $xRy$ 」を満たすもの。

《出題の意図》

哲学の重要事項に関する基本的な理解が受験者にどの程度あるか、基礎的な用語・概念の説明力がどの程度あるかを問うものである。